

少年センターだより

令和2年7月18日
発行
日野町少年センター
日野町河原1丁目1番地
TEL/FAX 0748-53-1325
http://www.rmc.ne.jp/h.g-s.c/

「地域とともにある学校づくり」

日野町立日野中学校
校長 福永 宣彦

この四月より、日野中学校に校長として着任いたしました。日野町にお世話になるのは初めてですが、まず驚いたのが素晴らしい施設・設備です。日野の未来を担う子どもたちへの期待を感じました。

さて、近年、学校現場で肌で感じる変化があります。それは、学校に登校することに不安を抱えている生徒が年々増えてきていることです。原因として考えられるのが、学習に対する不安や友達関係。しかし、これらについては、今までもあったもので、学校としての予防・対策に努めてきました。

しかし、ここ数年増えていると感じるのが、「社会に対する不安」「家庭での不安」といった学校だけでは対応しきれないものです。最近よく耳にする「子どもの貧困」「虐待」、それに加えて、「新型コロナウイルスによる社会不安」が大きく子どもたちに影響しているように感じます。



そこで必要となってくるのが、「地域とともにある学校づくり」というキーワードだと思います。

子どもや学校が抱える課題の解決や未来を担う子どもたちの豊かな成長のために『社会総掛かりでの教育を実現すること』、学校と地域住民等が「地域でどのような子どもを育てるか」、「何を表現していくか」という『目標やビジョンを共有すること』がまさに重要だと考えます。

日野町の教育には、「日野のだから」を未来につなぐ、心豊かでたくましい人づくり」という素敵なキャッチフレーズが引き継がれています。

このキャッチフレーズをあらためて、学校、園・家庭・地域が認識し、将来の日野町を支える子どもたちを地獄ぐるみで育てる、そんなシステム作りが求められていると思います。

長い間お世話になりました。

日野町少年補導委員は各地区公民館長から推薦を受け2年任期で就任いただいておりますが、去る3月末をもって、町田絹子さん、道津豊吉さん、岡登志男さん、岸村昌光さん、樫野賢一さん、谷口かおるさん、岡崎弘さんが退任されました。

子どもたちの下校を見守る街頭補導や中学校での朝のあいさつ運動、氏郷まつり夏の陣での夜のパトロールや、「楽市・楽座」での啓発活動、また幼稚園や保育園に出向いてのペープサート等様々な場面で長年ご活躍いただきました。退任される皆様のご活躍が、

地域の青少年の健全育成に大きな力となりました。少年補導委員という立場は離れられましても、地域の子どもの事を温かく見守っていただけるとありがたく思います。



町田 絹子さん 道津 豊吉さん



岡 登志男さん 岸村 昌光さん 樫野 賢一さん 谷口 かおるさん 岡崎 弘さん

感謝状が贈呈されました

少年補導委員を4年間勤め、少年の非行防止と健全育成活動にご尽力いただいた河副正美さん、山添秀雄さんに東近江警察署長から感謝状が贈られ、6月18日の少年補導委員会定例会の場で日野警部交番所長から伝達されました。お二人には、今後益々のご活躍をご祈念申し上げます。



河副 正美さん 山添 秀雄さん

子育て小窓

「子どもにあやとびを教えて欲しいんだけど…」運動大好き人間の私に、近所に住む親せきの母親からの依頼でした。聞いてみると、コロナ禍の下で運動不足解消にと親も祖父母も総出で練習してみたものの、一向に上達せず困っているとのこと。『それならば…!』と早速手本を見せたり褒めたりしては必死に練習をさせていたところ、当の母親はそっぽを向いています。後から話を聞いてみると、「家で練習してみてもなかなか上達しないので、つつい『なんでできないの』と言ってしまい、けんかになってしまった」と言います。だから口出ししないようにあえて横を向いていたとのこと。そして、「家族のことになるとムキになってしまっ…」と話してくれました。

家族は、顔色や声のトーンの違いで『何かあったな』と気がつくこともあれば、ちょっとしたことが気になってイライラしてしまうこともあります。親子だから子どもの成長が気になるのは当然ですが、子どもが親の思っているようにできないことも沢山あります。親が、子と自分との違いを理解することは、その子に合った関わりにつながります。

一週間後、練習の成果を見せてもらうと、7回もできるようになっていました。でも母親は「10回できたら帰ろう!」と一言。7回できたことをほめてあげたら…子どもに合わせて考えるのは難しいものだと感じたものでした。

日野町子育て・教育相談センター I・M

あらゆる薬物乱用をなくそう

「ダメ。ゼツタイ。」普及運動

～6月20日から7月19日まで～

覚醒剤や麻薬、大麻、危険ドラッグなどの薬物乱用は、あなたの健康やあなたの周りの人々に計り知れない害悪をもたらします。たとえ1回だけでも「乱用」です。絶対に使ってはいけません。

青少年の非行・被害防止滋賀県強調月間

例年であれば子どもたちが待ちに待っている夏休みが、今年は新型コロナウイルスによる休校措置があったために、約2週間に短縮されています。それでも、この期間はお盆などもあって、学校や勉強から解放され、気もゆるみがちになって、夜遅くまで出歩いたり、お酒やたばこに手を出したりするなど、非行の兆しが見えやすい時期でもあります。加えて、夜遅くまで出歩くこと等により、犯罪被害にあう危険も高くなります。また、近年はスマートフォンやSNSをはじめとする新たな機器やサービスが急速に浸透し、子どもを取り巻くインターネット環境が大きく変化しています。

滋賀県では、7月1日から31日までの間、「地域の力で子どもをまもり、はぐくむ」を重点テーマに、青少年の非行・被害防止滋賀県強調月間が実施されています。重点施策として「SNS利用に係る非行・被害防止対策の推進」「薬物の乱用を防止する対策の推進」が掲げられ各地で様々な啓発活動が行われています。

夏休みは危険がいっぱい！子どもの非行・被害を防ぐため

※政府広報オンラインより一部抜粋

事例 1

危険が潜むインターネット

インターネット上の世界には、役立つ情報がたくさんある一方で、暴力的な表現やアダルト画像といった有害な情報も多く存在します。また、掲示板やSNSなどのコミュニティサイトにも様々なトラブルが生じる危険があります。



事例 2

STOP！子どもの性被害

子どもがコミュニティサイトを通じて知り合った面識のないものに脅かされたり言葉巧みにだまされたりする事件が増加しています。「他人に個人情報を書かない」「下着姿や裸の写真は撮らない、送らない」ことを約束させましょう。



事例 3

非行や犯罪被害の危険が多い「深夜のはいかい」

夜遅くの外出には恐喝や暴行、性犯罪などの被害にあう危険もあれば、喫煙・飲酒などの不良行為を行うきっかけとなる誘惑も潜んでいます。遅くまで帰らない子どもを頭ごなしに叱るのではなく、家庭が安らぎを感じられる居場所であるように考えてみましょう。



事例 4

大麻や危険ドラッグは身近な場所にも

危険ドラッグには、麻薬や覚せい剤とよく似た成分や、それを上回る影響を及ぼす成分が含まれており、非常に危険です。覚せい剤や大麻、危険ドラッグには「近づかない」「持たない」「もらわない」「買わない」「使わない」という強い意志を持ちましょう。



事例 5

危険な玩具を持たない

滋賀県青少年健全育成条例によって、持つことや使用に危険があるとして未成年への販売・所持が禁止されている「有害玩具」があります。エアソフトガンやクロスボウは殺傷能力もあり、持つこと自体が危険です。



「クロスボウ」

つぶやき

3年前、真夏の炎天下の中、家の裏の道路上で一匹の子猫がびるびる震えていました。親猫の姿は見当たらず、ほとんど動けない子猫を、娘たちは見すぐすことができず、家に連れて帰って急ぎ動物病院へ。診察の結果、子猫は栄養不足で病気もあり、注意しないと命も長くないとのこと。

3年たって、子猫は病気になったり大ケガをしたりしながらも成長し、いたずらや叱られるようなこともしばしば。時には家族の目を盗んで家から脱走することもあります。すぐに戻り、家の中でのんびりと落ち着いて寝ています。

子どもも同じです。親に心配をかけ、時には反抗もするし道からそれそうになることもあります。でも、いちばんの居場所は、自分を何よりも愛しかわいがって育ててくれる我が家や地域です。そんな落ち着ける家や地域がある子どもは、途中少し道に迷うことがあっても、きっと大きくは外れていかないのではないのでしょうか。子どもを取り巻く社会状況が年々厳しく複雑になっていく中、ますます家庭や地域が重要になっていることを感じます。

4月から少年センターで勤務しています。少しでも日野の子どもたちの笑顔が増えるようにと思っています。

日野町少年センター 音羽 了俊

ひとりで悩まないでまずは相談を！

少年センターでは、少年に関する悩みや心配ごとの相談を行っています。本人だけでなく、家族の方の相談も受けています。お気軽にお越しください。秘密は厳守します。

○電話相談 ○面接相談 ○相談時間：月～金
9:00～16:30

電話 0748-53-1325

E-mail hino.t-syonen.c@rmc.ne.jp

日野町少年センター(日野町勤労福祉会館 2階)